

北海道浮魚ニュース

平成 19(2007)年度 12 号 (通巻 No.245)

2007 年 8 月 9 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成19年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

8 月 7 日に塩釜市において、平成 19 年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁 URL : <http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>

【漁況予報】 (図 1 参照)

予測期間 : 2007 年 8 月中旬 ~ 12 月

対象海域 : 北西太平洋 (道東沖から常磐沖)

対象漁業 : サンマ棒受網

魚 体 : 大きさは肉体長 (体長) で表示し、便宜的に大型魚 (29cm 以上)、
中型魚 (24 ~ 29cm 未満) および小型魚 (20 ~ 24cm 未満) と区分した

来遊量

来遊量は昨年を下回る。

魚体

大型魚の割合は昨年を下回る。

漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は、道東沖 ~ 色丹島沖に形成される。三陸沖への南下時期は昨年並で、漁場形成は 10 月上旬になる。常磐沖での漁場形成は暖水域の影響により昨年より 1 旬ほど遅れ、11 月上旬になる。

解説

来遊量

6 ~ 7 月に 143° E ~ 165° W の海域で東北区水産研究所 (北海道教育庁北鳳丸 (用船) 山口県立水産高校青海丸 (用船)) が中層トロールを用いて行った漁獲調査に基づく 177° W 以西の資源量推定値は 358 万トンで、昨年 (416 万トン) を下回った。同海域における中・小型魚の推定資源尾数は 408 億尾であり昨年 (281 億尾) を上回ったが、大型魚は 115 億尾であり昨年 (194 億尾) を下回った。

また、北海道立釧路水産試験場北辰丸が 7 月に 40° 30' ~ 46° 30' N、149° 30' ~ 162° 30' E で行った流し網調査では、流し網 1 反あたりの漁獲尾数は 18.3 尾であり、昨年 (38.7 尾) を下回った。

6 ~ 7 月に 150° E 以西で行われた岩手県水産技術センター岩手丸、宮城県水産研究開発センター拓洋丸、福島県水産試験場いわき丸、茨城県水産試験場いばらき丸、千葉県水産総合研究センター房総丸の調査でも、昨年と同様に沿岸域での漁獲および魚群の発見は少なかった。

以上のことから、昨年と比べ特に大型魚の来遊量は下回り、重量ベースでの全体の来遊量でも下回ると考えられる。

魚体

東北区水産研究所の6~7月のトロール調査に基づく資源尾数の推定結果から、大型魚の割合は22%で昨年の41%を下回り、2002年以降では2番目に低くなった。また、7月の北海道立釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果でも、大型魚の割合が20%と昨年(61%)より低かった。これらのことから、今漁期における漁獲物の大型魚の割合は昨年を下回ると考えられる。

漁期・漁場

近年の8月下旬における漁場は、表面水温15℃付近の潮目に形成されている。8月上旬現在、千島列島南から道東沖へ延びている親潮水の先端は厚岸沖に達している。一方、下北半島沖暖水塊東側の15℃前後の潮目は厚岸沖から南東方向に形成されている。今後昇温に伴って、この潮目は北東へ移動することから、大型船出漁後の初期漁場は潮目となる道東沖から、色丹島沖に形成される。さらに、この暖水塊南東の親潮系冷水の張り出し先端付近に漁場が形成されることも考えられる。なお、東北区水産研究所で行った本年の漁期前調査時には155~163°Eのサンマの漁獲が少なく、163°Eより西の海域では1有漁点当たりの漁獲尾数が387尾であり、163°E以东(1,753尾)より大幅に少なかった(2006年はそれぞれ1,484、1,277尾)。従って、千島列島から道東沖への本格的な来遊は遅れる可能性がある。

親潮第1分枝の張り出しは平年並~やや北偏傾向が持続し、津軽暖流の東方への張り出しはやや強勢で推移するものの、サンマの三陸沖への南下を阻むものではない。従って、三陸沖(41°N以南、143°E以西)における初漁場は昨年と同様10月上旬に形成される。常磐沖(38°N以南)への南下は暖水域の影響から昨年よりも一旬ほど遅れ、11月上旬と予測される。

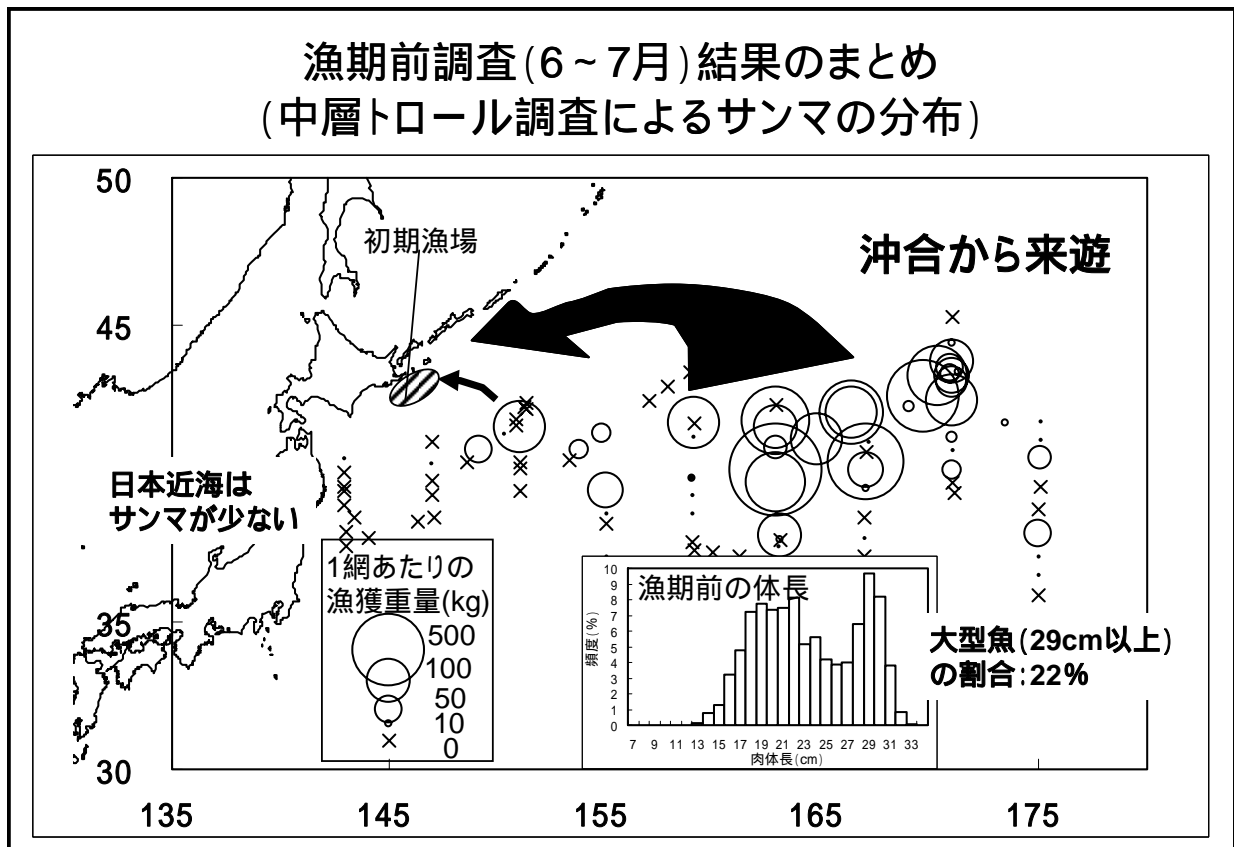


図1 2007年サンマ漁期前調査結果のまとめ.

図中の「○」は、調査点毎のサンマの採集量を示し、円が大きいほど採集量が多い。

「x」は、採集がなかったことを示す。

体長頻度分布のグラフは、縦軸が頻度(%)、横軸が肉体長(cm)を示す。

【海況予報】（図2参照）

予測期間：2007年9月～11月

対象海域：北西太平洋

黒潮

近海の黒潮の北限位置は、かなり南偏～やや南偏(35°20'N～36°20'N)で推移する。

黒潮系暖水

黒潮系暖水の北限位置は、近海で平年並で推移する。

暖水塊

下北半島沖および常磐沖の暖水塊は停滞する。

親潮

親潮第1分枝の張り出しは、平年並～やや北偏(40°30'N以北)で推移する。

親潮第2分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。

津軽暖流

津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢(143°30'E付近まで)で推移する。

「近海」は146°E以西、「沖合」は146°E以东を表す。

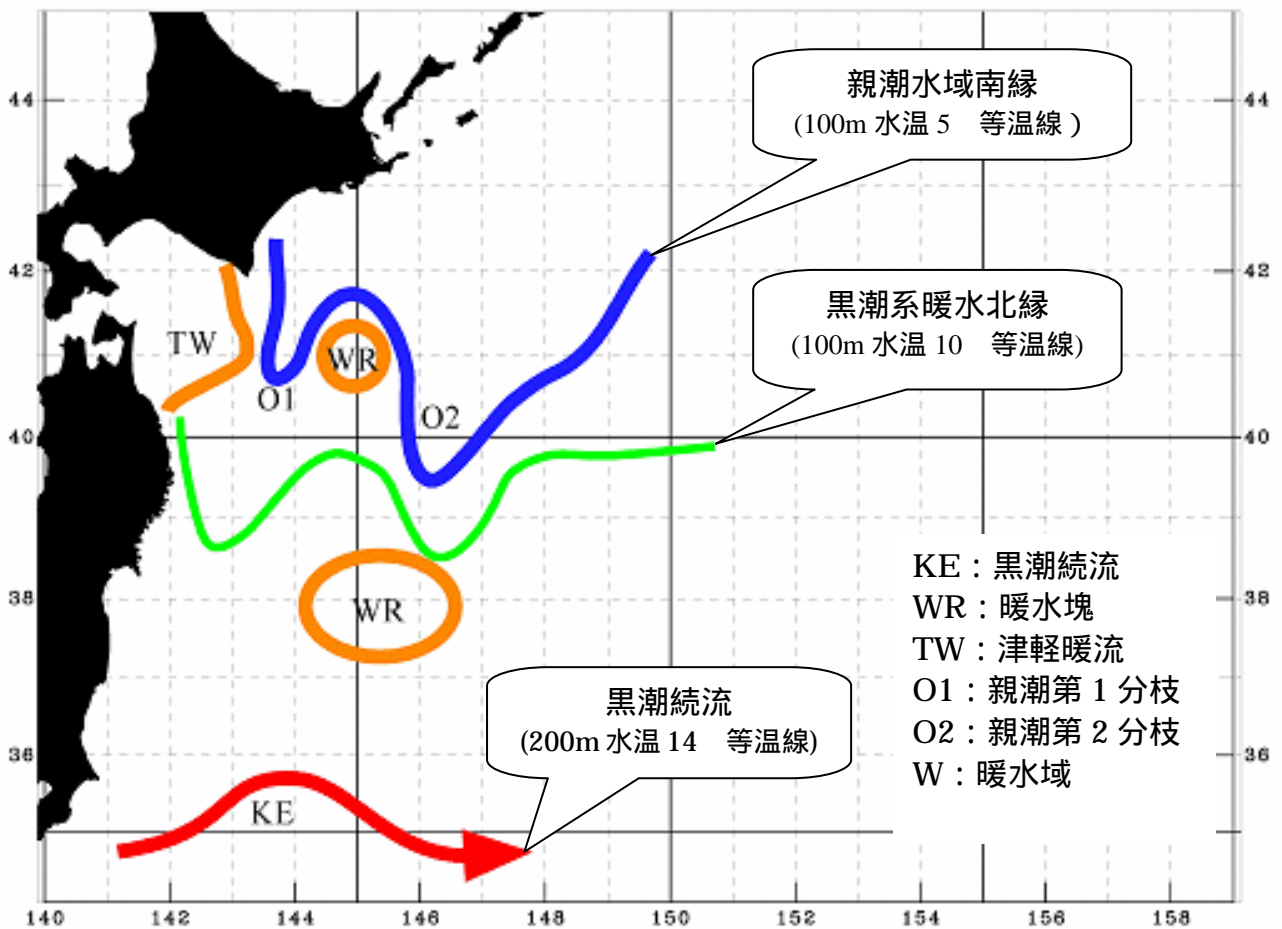


図2 海況の今後の見通し(9月下旬を想定)

(文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)